

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
北海道スポーツ専門学校		平成4年12月4日	滝本 玲	〒 065-0011 (住所) 北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 (電話) 011-753-7073			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人吉田学園		昭和53年10月31日	吉田 祐樹	〒 060-0063 (住所) 北海道札幌市中央区南3条西1丁目15番地 (電話) 011-272-6070			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	専門課程	スポーツ健康学科	平成29(2017)年度	-	平成29(2017)年度		
学科の目的	本学科は、各種スポーツに対応し、多様化したニーズに応えるトレーニング指導、コーチングができる。また北海道のプロスポーツや地域社会と連携し、スポーツ等のイベントを通じて多職種・多世代の生涯スポーツの推進及び、地域の産業活性化に貢献できる人材育成を目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学者等)	■主な取得可能資格:トレーニング指導者、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、水泳コーチ I、エアロビクコーチ I ■中途退学者:8名 ■退学者:11.8% (令和4年度在籍者68名)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,800 単位時間 単位	1,500 単位時間 単位	単位時間 単位	510 単位時間 単位	単位時間 単位	780 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
120人	68人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		29	人			
	■就職希望者数(D)		29	人			
	■就職者数(E)		29	人			
	■地元就職者数(F)		11	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		55	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) スポーツインストラクター、スポーツトレーナー、体育指導員等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		無				
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.yoshida-sports.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数	2,700 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	540 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間					
	うち必修授業時数	360 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	330 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	120 単位時間					
	(B:単位数による算定)						
	総授業時数	単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位					
	うち必修授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを連算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		1人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		4人				
	計		9人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ健康学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等)等に活かすことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

- ・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
- ・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項
- ・学則の教育課程に関する事項
- ・教育課程に基づくシラバスに関する事項
- ・実習・演習等に関する事項
- ・その他、職業教育に関する事項

②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、学科会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更については、校長の決裁を経て行われる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	③
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	③
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	③
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局 次長兼総務・会計課長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	①
滝本 玲	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校校長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	—
大森 達也	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校副校長	令和 5年4月1日～ 令和 7年3月31日(2年)	—
齋藤 敬男	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校学科長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	—
今北 雄太	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 副学科長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	—
藤田 真	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 iD事業部副部長	令和 5年4月1日～ 令和 7年3月31日(2年)	—
千保 大聖	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校主任	令和 5年4月1日～ 令和 7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年 8月6日 15:00～16:30

第2回 令和5年 2月7日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ディプロマポリシー(DP:学習成果の目標となる基本的な方針)、カリキュラムポリシー(CP:教育課程編成、教育内容・方法の基本的な方針)、アドミッションポリシー(AP:入学者を受け入れるための基本的な方針)を整備し、また、教育課程をよりわかりやすく示すものとして体系図化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
事業委託契約書による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指す為に連携を行うもの。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 スポーツ業界の第一線で活躍するインストラクター、管理栄養士、トレーナー(リラクゼーションセラピスト、鍼灸師、柔道整復師等)から業界動向も踏まえ、それに必要な最新の知識、技術を学び、時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスポーツ指導者を育てる。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	株式会社ウェルネスプランニング札幌 株式会社ブライアンブルー
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。 ・教職員研修会 ・専門学校教育研修会 ・階層別研修 ・外部研修等(学会等を含む)		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等: 健康・体力づくり事業財団
期間:	令和5年3月20日	対象: 養成校主任教員及び担当教員
内容:	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種 学校教育能力認定委員会
期間:	令和4年8月2日	対象: 公益社団法人 北海道私 立専修学校各種学校連 合会会員校の教職員
内容:	「いま、求められている・求めたい教育の間で一新型コロナ下の状況をふまえて」	
研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等: 無し
期間:	令和4年8月10日	対象: 正職員・嘱託職員
内容:	2021年研修会事例検討会からの北海道スポーツ専門学校の取り組み パネルディスカッション「動機付けモデルを活用した授業の工夫」 シンポジウム「各校マネージャーの教育基軸の活用に向けた取り組み」	
研修名:	学校法人吉田学園 教職員研修会	連携企業等: 株式会社ブロッサム
期間:	令和5年3月16日	対象: 正職員・嘱託職員
内容:	講演「コンプライアンスと意識改革」 講演「大義」	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和6年3月	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容:	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種 学校教育能力認定委員会
期間:	令和5年8月1日	対象:	公益社団法人 北海道私 立専修学校各種学校連合 会会員校の教職員
内容:	講演「心動かす価値が未来を変える～持続可能な組織・地域をつくるために～」		

研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	北海道医療大学
期間:	令和5年8月10日	対象:	正職員・嘱託職員
内容:	講演「学生の多様化に対応する教育相談のあり方」 分科会「発達障害や心の問題を抱える学生への対応、所属感や連帯感を高めるクラス経営の在り方、 学生の強みを育む指導、退学率抑止に向けた取組・方策」		

研修名:	学校法人吉田学園 教職員研修会	連携企業等:	未定
期間:	令和6年3月	対象:	正職員・嘱託職員
内容:	新年度を迎えるにあたり住職の講話を拝聴し、全職員の意識を統一し士気の高揚を図る。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。

- ・教育理念・目標
- ・学校運営
- ・教育活動
- ・学修成果
- ・学生支援
- ・教育環境
- ・学生の受け入れ募集
- ・財務
- ・法令等の遵守
- ・社会貢献・地域貢献
- ・国際交流

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ②学校における職業教育の特色は何か ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	①施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③納付金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己点検・評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	①留学生の受入れについて戦略を持って行っているか ②留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価より、「資格取得率」「AT研究センターの活発化・強化」「教員・学生のモチベーション維持・向上」「学校の特色」等に関する意見が寄せられた。

この意見を踏まえ、その改善を図るべく、プロジェクトチーム化を図り、他専門学校動向調査(特色、教育課程の実態、教育実績、部活動実績、その他)に取り組むこととした。ウィズコロナの時代にどう学校運営を進め、人材育成を図るか検討し学校を良くしていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	卒業生
金子 知	社会医療法人 朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長 リハビリテーション部長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	企業等委員
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	卒業生
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会 事務局次長兼総務・会計課長	令和 4年4月1日～ 令和 6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員数、在学生数 ・カリキュラム(授業概要、授業時数等) ・進級・卒業要件等(成績評価基準、進級・卒業の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業生数、卒業後の進路(主な就職先、就職者数、就職率等)
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み状況 ・部活動の活動状況および実績 ・施設・設備等の教育環境
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生・生活指導への取り組み状況 ・カウンセリングの体制整備等に関する状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い(学費・納入時期等) ・活用できる修学支援の内容(奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等)
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書 ・収支計算書 ・貸借対照表 ・監査報告書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策等
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和5年10月31日

授業科目等の概要

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーントレーナーコース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
				スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかん発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
				スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあつた指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
				身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
	○			健康運動理論 I	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	1・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
8	○			健康 プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	1・ 後	30	2	○			○		○		
9	○			健康運動理論 Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・ 前	30	2	○			○		○		
10	○			健康 プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・ 前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気 を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理 から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習 する。	2・ 前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法 やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特 徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調 理実習」等も実施する。	2・ 後	30	2	○		△	○	○		○	○
13	○			ジュニア スポーツ指導の 基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動 能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・ 前	30	2	○			○		○		
14	○			ジュニア スポーツ指導の 実際	体育」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアス ポーツ指導者としての意識・自覚を高め、少年スポーツにおける教育ができる力を養う。人の運動神経は何歳で 決まるのか？それを左右する運動指導とは何かを学ぶ。	2・ 後	30	2	○			○		○		
15	○			救急処置法	スポーツ活動中に多いケガや疾病について、その発生原因や症状について理解し、指導者としての対応の仕方・救急処置を行うべきかについて学習する。	2・ 後	30	2	○		△	○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
17	○			各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋 カトレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		
18	○			トレーニングにおけるエクササイズテクニック	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋 カトレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	○
19			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○		○		
20			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
21			○	エアロビックコーチI対策理論	検定試験(エアロビック指導員:理論試験)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
22			○	水泳コーチI対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
23			○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験(ジュニアスポーツ指導員)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
24	○			JATIトレーニング指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為に 対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○	○	

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25			○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○		△	○			○	○
26	○			トレーニング指導者理論	日本トレーニング指導者協会(JATI)認定トレーニング指導者に必要な知識を学び、主に一般科目の内容を学習する。	2・後	30	2	○			○		○		
27	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
28	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
29	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
30	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
31	○			スポーツスキルⅠ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	1・通	60	2			○	○		○		
32			○	スノーボード・スキー宿泊実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
33	○			スポーツスキルⅡ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	2・後	30	1			○	○		○		
34			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○		○		
35	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
36	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		
37			○	エアロビックコーチⅠ対策実技	検定試験(エアロビック指導員:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○			○	
38			○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験(公認水泳コーチ1)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○		○		
39			○	スノーボード・スキー宿泊実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○		
40	○			スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	2・前	30	1			○	○			○	○

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
41	○			基礎学習	現在、社会問題にもなっている、若者の「基礎学力の低下」に対し、基礎的な学力(読み書き・計算)や社会人常識(一般教養・時事問題)を中心に勉強していく。又、就職試験でも基礎学力を問う企業が増えている。それら試験に対応できるよう準備する。	1・前	30	2	○			○		○	
42	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○
43	○			コミュニケーション I	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○	
44	○			カレッジイベント I	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○	
45	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1				○	○		○
46	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・前	30	2	○			○			○
47	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○
48			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーントレーナーコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
49	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
50	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
51	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
52	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
53	○			インターンシップⅠ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○	
54	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		
55	○			インターンシップⅡ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	2・集	60	2	△		○	○	○	○	○	○

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
			○	ボランティア活動	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△			○		○		
		○		パーソナルトレーナー実習Ⅰ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	○			△	○		○	○
				パーソナルトレーナー実習Ⅱ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、現場で通用する指導者を目指す。	2・通	60	2	○			△	○		○	○
		○		コンディショニングトレーナー実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識・技術を学び、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	○			△	○		○	

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツトレーナーコース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
66				コンディショニングトレーナー実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識・技術を学び、現場で通用する指導者を目指す。	2・通	60	2	○		△	○		○		
合計							66	科目	2700			単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあつた指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			健康運動理論 I	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	1・後	30	2	○			○		○		
8	○			健康プログラム I	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
9	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	2・前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総合的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
13	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			ジュニアスポーツ指導の実際	「体育」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者としての意識・自覚を高め、少年スポーツにおける教育ができる力を養う。人の運動神経は何歳で決まるのか？それを左右する運動指導とは何かを学ぶ。	2・後	30	2	○			○		○		
15	○			救急処置法	スポーツ活動中に多いケガや疾病について、その発生原因や症状について理解し、指導者としての対応の仕方・救急処置を行うべきかについて学習する。	2・後	30	2	○		△	○		○		
16	○			健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
17	○			各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
18	○			トレーニングにおけるエクササイズテクニック	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	○
19			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○			○	
20			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
21			○	エアロビックコーチI対策理論	検定試験(エアロビック指導員:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
22			○	水泳コーチI対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
23	○			ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験(ジュニアスポーツ指導員)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
24			○	JATIトレーニング指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	○
25	○			プログラム研究と開発	一般向けスタジオプログラムの企画から実践までを行う。	2・通	60	4	○			○			○	
26	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2				○	○		○	
27	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・通	60	2				○	○		○	

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必修	選択必修	自由選択														
28	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
29	○			テーピングテクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
30	○			スポーツスキルⅠ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
31			○	スノーボード・スキー宿泊実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
32	○			スポーツスキルⅡ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	2・後	30	1			○	○			○	
33			○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○			○	
34	○			各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
35	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○			○	
36			○	エアロビックコーチⅠ対策実技	検定試験(エアロビック指導員:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	1			○	○			○	

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37			○	水泳コーチ I 対策実技	検定試験(公認水泳コーチ1:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・ 集	30	1			○	○		○		
38			○	スノーボード・ スキー宿泊実習 II	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・ 集	60	2			○		○	○	○	
39	○			基礎学習	現在、社会問題にもなっている、若者の「基礎学力の低下」に対し、基礎的な学力(読み書き・計算)や社会人常識(一般教養・時事問題)を中心に勉強していく。又、就職試験でも基礎学力を問う企業が増えている。それら試験に対応できるよう準備する。	1・ 前	30	2	○			○		○		
40	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・ 後	30	2	○			○			○	
41	○			コミュニ ケーション I	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・ 集	30	2	○			○		○		
42	○			カレッジイベント I	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・ 集	30	1	○		△		○	○		
43	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・ 集	30	1			○	○		○		
44	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・ 前	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
45	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○				○	
46			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○					○
47	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○				○	
48	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○			
49	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○	○
50	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○			
51	○			インターンシップⅠ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○		
52	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。又、実際に幼児に携わる事で、スイミング技術だけではなく幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○			

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等 との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
53	○			インターンシップ Ⅱ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	2 ・ 集	60	2	△		○	○	○	○	○	○
54			○	一年次研究 課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
55			○	一年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
56			○	一年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
57			○	二年次研究課 題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
59			○	二年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
60			○	ボランティア 活動	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2 ・ 集	30	1	△			○		○		
61		○		フィットネス プログラムⅠ	フィットネス業界の歩みを知り、実例をみながらスポーツクラブ運営の基礎を学ぶ。経営戦略への興味関心を高め、基礎知識を習得する。	1 ・ 通	60	2				○	○	○	○	○

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		フィットネスプログラムⅡ	スポーツクラブの経営戦略について理解する。経営戦略の基礎知識を習得し、興味関心を高める。	2・通	60	2			○	○	○	○	○	○
		○		こどもスポーツ実習Ⅰ	子どもの身体的特徴や発育発達段階を理解する。また、レッスンにおける指導を通じて運動指導の実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○		○		
			○	こどもスポーツ実習Ⅱ	子どもの発育発達及び習熟段階を考慮した指導計画を立案し、効果的な運動指導を実践する。	2・通	60	2			○	○		○		○
			○	ダンスパフォーマンスⅠ	ダンスインストラクターとしての知識とダンススキルを身につけ、ダンスショーのプログラム(選曲・振付・発表)・ダンスエクササイズと基礎指導ができる。	1・通	60	2			○	○			○	○
			○	ダンスパフォーマンスⅡ	ダンスインストラクターとしての知識と技術を向上し、ダンスショーのプログラム・ダンスイベント運営スタッフ・ダンスレッスン指導を可能にする。	2・通	60	2			○	○			○	○
				スイミングインストラクション	各4泳法の見本となるようなフォームの習得と補助技術を習得する。	1・前	30	1			○	○		○		
			○	アクアエクササイズ	水の特性を理解し、水中での移動方法・筋力トレーニングなどの基礎の動きを習得し、目的に合わせたプログラムの作成・指導を行える力を身につける。	1・後	30	1			○	○			○	
				スイミングトレーニング	持久力・スピードを向上させるためのトレーニングを行う。各泳法のフォーム・ターン動作にも気をつけながら泳力を向上させる。また指導における留意点も学ぶ。	2・通	60	2			○	○			○	
			○	スノーボード・スキートレーニングⅠ	冬場におけるスノーボード・スキー実習を効率良く行うためのベース作りを行う。	1・通	60	2			○	○	○	○		
			○	スノーボード・スキートレーニングⅡ	冬場におけるスノーボード・スキー実習を効率良く行うためのベース作りを行う。あらゆる特性を網羅出来るトレーニング内容の提案、指導が出来るよう学習する。	2・通	60	2			○	○	○	○		

(専門課程 スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計						71	科目	2670	単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかん発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			健康運動理論 I	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	1・後	30	2	○			○		○		
8	○			健康プログラム I	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
9	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	2・前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総合的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
13	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			ジュニアスポーツ指導の実際	「体育」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者としての意識・自覚を高め、少年スポーツにおける教育ができる力を養う。人の運動神経は何歳で決まるのか？それを左右する運動指導とは何かを学ぶ。	2・後	30	2	○			○		○		
15	○			救急処置法	スポーツ活動中に多いケガや疾病について、その発生原因や症状について理解し、指導者としての対応の仕方・救急処置を行うべきかについて学習する。	2・後	30	2	○		△	○		○		
16	○			健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
17	○			各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
18	○			トレーニングにおけるエクササイズテクニック	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	○
19			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○			○	
20			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
21			○	エアロビックコーチI対策理論	検定試験(エアロビック指導員:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
22			○	水泳コーチI対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
23	○			ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験(ジュニアスポーツ指導員)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
24			○	JATIトレーニング指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	○
25	○			コーチングの仕方	指導者を志す立場として、人を育てるという心理学を基本に、コーチングの理論と仕方、より良い方向性を学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
26	○			コーチ・審判ライセンス特別講習会	サッカー及びバスケットボール公認コーチ資格に必要な知識・技術を習得し、ライセンス取得を目指す。	2・集	30	1	○		△		○		○	
27	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2				○	○		○	

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28	○			ベーシック スイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
29	○			ベーシック エアロビック ダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
30	○			テーピング テクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
31	○			スポーツスキルⅠ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
32			○	スノーボード・ スキー宿泊実習 Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
33	○			スポーツスキルⅡ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	2・後	30	1			○	○			○	
34			○	スイミング スキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○			○	
35	○			各種 トレーニング法の 実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
36	○			健康運動実践 指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○			○	

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37			○	エアロビック コーチⅠ 対策実技	検定試験(エアロビック指導員:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・ 集	30	1			○	○			○	
38			○	水泳コーチⅠ 対策実技	検定試験(公認水泳コーチ1:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・ 集	30	1			○	○			○	
39			○	スノーボード・ スキー宿泊実習 Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・ 集	60	2			○		○	○		
40	○			基礎学習	現在、社会問題にもなっている、若者の「基礎学力の低下」に対し、基礎的な学力(読み書き・計算)や社会人常識(一般教養・時事問題)を中心に勉強していく。又、就職試験でも基礎学力を問う企業が増えている。それら試験に対応できるよう準備する。	1・ 前	30	2	○			○		○		
41	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得て、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・ 後	30	2	○			○			○	
42	○			コミュニ ケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・ 集	30	2	○			○		○		
43	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・ 集	30	1	○		△		○	○		
44	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・ 集	30	1			○	○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
45	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・前	30	2	○			○		○			
46	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○				○	
47			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○				○	
48	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○			○		
49	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○			
50	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△			○		○	○	○	○
51	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△			○		○	○		
52	○			インターンシップⅠ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクール(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現場を体験する。又、その為に必要な講義やスタジオレッスンも受講する。	1・集	30	1	△			○	○	○	○	○	

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等 との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
53	○			ジュニア スポーツ指導 実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→ 反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事でスイミング技術 だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学 ぶ。	2 ・ 前	60	2			○	○		○		
54	○			インターンシップ Ⅱ	スポーツクラブにおける各種ジュニアスクー ル(スイミング・体育・短期)のサブコーチ(指導 補助)や行事でのスタッフ等、実際の指導現 場を体験する。又、その為に必要な講義やス タジオレッスンも受講する。	2 ・ 集	60	2	△		○	○	○	○	○	○
55			○	一年次研究 課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
56			○	一年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
57			○	一年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究 課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
59			○	二年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
60			○	二年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視 点において、指定された研究課題に取り組 みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
			○	ボランティア活動	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○	○	○			
				サッカー コーチ実習Ⅰ	サッカー指導者としての心得、サッカーの概念、指導法や接し方等を学び活かし、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○	○	○		○
		○		サッカー コーチ実習Ⅱ	コンサドーレジュニアサッカースクールでの指導を行う。1回のスクールでの上達や満足度を高めるための変化を学び、スクール生の特徴・特性を理解し一人一人に見合った指導が出来ることを目標とする。	2・通	60	2			○	○	○	○	○	○
				バスケットボールコーチ実習Ⅰ	レバンガアカデミーの生徒に対し、メインコーチとして適切な言葉や表現で指導できるよう経験を積む。	1・通	60	2	△		○	○	○	○		○
		○		バスケットボールコーチ実習Ⅱ	ミニバス少年団(小学生)に対し、メインコーチとして適切な言葉や表現で指導できるよう指導経験を積む。	2・通	60	2			○	○	○	○		○
				野球コーチ実習Ⅰ	野球指導者としての心得、野球の概念、指導法や接し方等を学び活かし、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○	○	○		○
		○		野球コーチ実習Ⅱ	1回のスクールでの上達や満足度を高めるための変化を学び、スクール生の特徴・特性を理解し一人一人に見合った指導が出来ることを目標とする。	2・通	60	2			○	○	○	○		○
				バドミントンコーチ実習Ⅰ	バドミントン指導者としての心得、バドミントンの概念、指導法や接し方等を学び活かし、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○	○	○		○
		○		バドミントンコーチ実習Ⅱ	1回のスクールでの上達や満足度を高めるための変化を学び、スクール生の特徴・特性を理解し一人一人に見合った指導が出来ることを目標とする。	2・通	60	2			○	○	○	○		○
		○		バレーボールコーチ実習Ⅰ	バレーボール指導者としての心得、バレーボールの概念、指導法や接し方等を学び活かし、現場で通用する指導者を目指す。	1・通	60	2	△		○	○	○	○		○

(専門課程 スポーツ健康学科 コーチ育成コース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
71		○		バレーボールコー チ実習Ⅱ	1回のスクールでの上達や満足度を高めるた めの変化を学び、スクール生の特徴・特性を 理解し一人一人に見合った指導が出来ること を目標とする。	2 ・ 通	60	2			○	○	○	○		○
72			○	陸上競技コー チ実習Ⅰ	陸上指導者としての心得、陸上の概念、指導 法や接し方等を学び活かし、現場で通用する 指導者をを目指す。	1 ・ 通	60	2	△		○	○	○	○		○
73				陸上競技 コー チ実習Ⅱ	1回のスクールでの上達や満足度を高めるた めの変化を学び、スクール生の特徴・特性を 理解し一人一人に見合った指導が出来ること を目標とする。	2 ・ 通	60	2			○	○	○	○		○
合計						73	科目	2670			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	1学期の授業期間	17 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかん発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			身体の解剖と機能	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			スポーツ 外傷・障害の基礎	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
7	○			健康運動理論 I	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	1・後	30	2	○			○		○		
8	○			健康プログラム I	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
10	○			健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
11	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	2・前	30	2	○			○			○	
12	○			スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総合的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	2・後	30	2	○		△	○	○		○	○
13	○			ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			ジュニアスポーツ指導の実際	「体育」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者としての意識・自覚を高め、少年スポーツにおける教育ができる力を養う。人の運動神経は何歳で決まるのか？それを左右する運動指導とは何かを学ぶ。	2・後	30	2	○			○		○		
15	○			救急処置法	スポーツ活動中に多いケガや疾病について、その発生原因や症状について理解し、指導者としての対応の仕方・救急処置を行うべきかについて学習する。	2・後	30	2	○		△	○		○		
16	○			健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
17	○			各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等 との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
18	○			トレーニングにおけるエクササイズテクニック	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	○
19			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1指導員検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	2・通	60	4	○			○			○	
20			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
21			○	エアロビックコーチI対策理論	検定試験(エアロビック指導員:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
22			○	水泳コーチI対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
23	○			スポーツビジネス論	現代社会におけるスポーツの発展とビジネスとしての側面を学び、スポーツに求められる社会的な役割・機能を考える。スポーツビジネスの現場で必要になる知識と能力を高め、述べる事が出来るようになる。	2・前	30	2	○			○			○	
24	○			スポーツ産業学	スポーツの発展は、社会的・経済的発展と相互関係にあることを理解したうえで、広い知見を深める。21世紀におけるスポーツの創造に向けて自ら考察できるようになる。	2・後	30	2	○			○			○	
25	○			イベント企画と立案	イベント企画に対する基礎知識を学び、発案・考案しイベント企画を構築する。	2・後	30	1				○	○		○	○
26	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2				○	○		○	
27	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・通	60	2				○	○		○	

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28	○			ベーシック エアロビック ダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
29	○			テーピング テクニック	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
30	○			スポーツスキルⅠ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
31			○	スノーボード・ スキー宿泊実習 Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○		
32	○			スポーツスキルⅡ	スポーツ現場(インストラクター、パーソナルトレーナー、指導者)を志す立場として、スポーツにおける様々なスキルを身に付け、又、スキルアップを目指す。安全管理や指導における留意点についても学ぶ。	2・後	30	1			○	○			○	
33			○	スイミング スキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	2・通	60	2			○	○			○	
34	○			各種 トレーニング法の 実際	レジスタントトレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
35	○			健康運動実践 指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○			○	

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
36			○	エアロビック コーチⅠ 対策実技	検定試験(エアロビック指導員:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・ 集	30	1			○	○			○	
37			○	水泳コーチⅠ 対策実技	検定試験(公認水泳コーチ1:実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・ 集	30	1			○	○			○	
38			○	スノーボード・ スキー宿泊実習 Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・ 集	60	2			○		○	○		
39	○			基礎学習	現在、社会問題にもなっている、若者の「基礎学力の低下」に対し、基礎的な学力(読み書き・計算)や社会人常識(一般教養・時事問題)を中心に勉強していく。又、就職試験でも基礎学力を問う企業が増えている。それら試験に対応できるよう準備する。	1・ 前	30	2	○			○		○		
40	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	1・ 後	30	2	○			○			○	
41	○			プレゼン テーション論	PowerPointの基本操作およびプレゼンテーションを行うための知識と技能を習得する。	1・ 前	30	2	△		○	○			○	
42	○			コミュニ ケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・ 集	30	2	○			○		○		
43	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・ 集	30	1	○		△		○	○		

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
44	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	1・集	30	1			○	○		○		
45	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・前	30	2	○			○		○		
46	○			情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	2・通	60	2	○			○			○	
47	○			外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	2・通	60	4	○		△	○			○	
48	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
49	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○		
50	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
51	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
52	○			ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。又、実際に幼児に携わる事でスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	2・前	60	2			○	○		○		

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
53			○	一年次研究 課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
54			○	一年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
55			○	一年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1 ・ 集	60	4	○			○		○		
56			○	二年次研究 課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
57			○	二年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
58			○	二年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2 ・ 集	60	4	○			○		○		
59			○	ボランティア 活動	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2 ・ 集	30	1	△		○	○	○			
60			○	インターンシップ PROⅠ (プロ野球)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。日本のスポーツビジネスについて理解し、マネジメント手法について考えることができるようになる。	1 ・ 通	60	4	○		△	○	○			○
61			○	インターンシップ PROⅡ (プロ野球)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。スポーツビジネスの現場で必要となる様々な観点から企画・立案・発表ができるようになる。	2 ・ 通	60	4	○		△	○	○			○

(専門課程 スポーツ健康学科 プロスポーツビジネスコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
62			インターンシップ PRO I (プロサッカー・フットサル)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。日本のスポーツビジネスについて理解し、マネジメント手法について考えることができるようになる。	1・通	60	4	○		△		○	○		○
63		○	インターンシップ PRO II (プロサッカー・フットサル)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。スポーツビジネスの現場で必要となる様々な観点から企画・立案・発表ができるようになる。	2・通	60	4	○		△		○	○		○
64			インターンシップ PRO I (プロバスケットボール)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。日本のスポーツビジネスについて理解し、マネジメント手法について考えることができるようになる。	1・通	60	4	○		△		○	○		○
65		○	インターンシップ PRO II (プロバスケットボール)	ビジネス視点及び地域社会貢献等において、運営・広報・イベント企画等を理解する。スポーツビジネスの現場で必要となる様々な観点から企画・立案・発表ができるようになる。	2・通	60	4	○		△		○	○		○
合計					65	科目		2580			単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。